

仙人通信 116 鈴ヶ岳 (1564.7m)

鈴ヶ岳は、赤城山塊で大沼(オノ)の西側に正規分布のような形をした、三等三角点の山である。仙人通信 88 で報告しましたが、赤城山は50万年前に活動が始まり、黒檜山・駒ヶ岳等の一期火山活動と鈴ヶ岳等の二期火山活動そして、カルデラ形成後に火山丘と成った地蔵岳・荒山等から構成されている。今回は、県道4号線の「カーブ68」の近くにある駐車場から鈴ヶ岳へのピストンである。

家を出た時に降っていた雨も高尾の圏央道で上がり、北の空は青空と眺望に期待が持てた。

駐車場のある新坂平には登山口を示す道標がある。登り始めると右側に白樺牧場との境界の鉄条網が張り巡らされ興奮をスタートであるも、この柵に沿って登ることで迷うことはない。

膝丈の笹の原を15分程登ると尾根道となり、更に10分程で姥子峠である。木々は芽が硬く、梢越しに県道と白樺牧場が望める。鶯やヤマガラが囀る、なだらかな道を10分程進と鍬柄峠だ。

笹原の尾根は狭くなり、展望も利く様になる。右の眼下には、カルデラに出来た濃紺の大沼そして、その上に黒檜山である。更にその左手には、雪で覆われた尾瀬の燧や至仏が、左手奥には浅間山や榛名山も眺める。15分で鍬柄平(最初のピーク)である。

南面も開けて、アンテナを付けた地蔵岳・荒山・鍋割山等の火山丘の山や西上州の山々だ。

轟音と共に湖面から吹きあがった風が、この峰を越えて富士見町へと抜け、立っているのがキツイ状態である。遠く武尊山も粉雪で見え隠れする。こちらと同じ気象状態のようだ。

水楢に加えて躑躅も多く、開花時を想像するのもいいものだ。

今回花には縁遠いと思っていたら、ピンクの可愛いスミレが三輪咲いてくれていて、心が和んだ。

ここから鈴ヶ岳の中央にある大ダワまでの600m(約30分)の下りは、狭い尾根でロープを頼りに下る。山影のために霜柱が登山道を覆い滑る。近くの沢頭には雪も見える。

大ダワでは湖面から吹き上り集まった風が枯葉を巻き込み轟音となって、通り過ぎて行く。

大ダワからは、鈴ヶ岳山頂に向けてほぼ直登で、岩尾根だ。岩は紫蘇岩石で、密度の低い灰色をおび、内部に雲母を含み日の光を反射して光る。岩場の険しい所は、ロープが張られ危険はないも慎重になる。

水楢・躑躅・ダケカンパ・赤松に加えリョウブやシャクナゲも散見される。大ダワから25分で鈴ヶ岳の山頂である。山頂北側には、赤城山大神・鈴嶽山神社・愛宕山大神の3基の石碑が祭られ、周囲には幾つもの石碑が安置され、かつての山岳信仰の深さを感じさせる。地図を広げコンパスを置き、

山名の確認だ。武尊山・谷川岳からの草津白根へと連なる国境の山々そして、更に西側では浅間山・榛名山・妙義等の山である。南面は梢越しであったことから、先程の鍬柄平へ戻り、西上州の山々の展望をゆっくり楽しみ、来たコースを戻った3時間25分の山旅でした。(h25.5.2)

大沼と黒檜山



山頂の3大神



浅間山

